

患者さんへの臨床研究のお知らせ

臨床研究「慢性活動性 EB ウイルス感染症に対する化学療法の実態調査」について

自治医科大学附属さいたま医療センター 血液科では、全国の血液内科（日本血液学会研修施設など）との多施設共同研究として、下記の臨床研究を実施しております。この研究は、当センターでの診療で得られた過去の記録をまとめることによって行われます。「人を対象とする医学系研究に関する倫理指針」に従い、対象となる患者さんから直接同意を得るのではなく、研究内容の情報を公開することが必要とされております。この研究に関するお問い合わせがございましたら、下記へご連絡下さい。

【研究目的】

EB ウイルス陽性 T/NK 細胞増殖症（慢性活動性 EB ウイルス感染症、CAEBV と略します）は、ヘルペスウイルスの仲間の EB ウイルスが白血球のひとつであるリンパ球の中で勢いをまし、その結果ウイルスをもつリンパ球自身を活性化させ、増やすことによって様々な症状をひきおこす慢性の病気です。日本をはじめとする東アジアに見られる、大変まれな病気です。ウイルスが B 細胞以外のリンパ球、T 細胞、NK 細胞に感染すると、勢いをましてウイルス自身が増えるほか、感染している T 細胞や NK 細胞をふえやすく、活動性の高いものに変えてしまいます。これを再活性化といいます。T 細胞、NK 細胞は体にはいつてくる様々な病原体に対し、サイトカインという物質をだして攻撃したり、直接それらを食べたり（食食、どんしょく、といいます）して体を守ってくれる細胞です。それらの細胞が活性化するとさまざまな症状が出てきます。また長い時間を経てそれらの細胞ががん化し、リンパ腫や白血病になります。これまで各種の抗がん剤による治療法が試みられてきましたが、有効な治療法が定まっていません。

大変稀な病気のため報告が少なく、どんな薬物療法がなされどのような効果を示すかを多くの患者さんに対して調査したデータはこれまでありませんでした。それが明らかになればより有効な治療の選択や計画に役立つことが期待されます。

【研究の対象となる方】

2003 年 1 月 1 日から 2016 年 3 月 31 日までの期間で、当科で慢性活動性 EB ウイルス感染症と診断された患者さんです。

【研究の方法】

研究では、全国の血液内科（日本血液学会研修施設など）にアンケート調査を行い、患者さんの数と行った治療、効果について調査します。

【個人情報の取り扱い】

調査は匿名で行います。結果は学術的研究に使用され、一人ひとりの個人情報は守られ、名前や個人を識別する情報は一切公表されません。また、患者さん個人に利益や不利益は生じません。研究結果は公的な学術大会や学術雑誌にて報告し、今後の検査法・治療法の改善に利用されます。第三者へ供給することはありません。

ご自身の情報が本研究に使用されることに同意されない場合には、下記へお申し出ください。研究に不参加であっても、患者さんが不利益を被ることは一切ございませんのでご安心下さい。

お問い合わせ先

〒330-8503 埼玉県さいたま市大宮区天沼町 1-847

自治医科大学附属さいたま医療センター

TEL 048-647-2111

研究責任者：血液科 神田 善伸